

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
3	川崎市立川中島中学校	松崎 宏行

学校教育目標	今年度の重点目標
「知・徳・体・意」の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する 1 正しい判断力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人 (知) 2 豊かな心を持ち、思いやりのある明るい人 (徳) 3 健全な心身を持ち、進んで行動のできる人 (体) 4 責任感を持ち、忍耐強く物事をやり遂げる人 (意)	1 授業力の向上 2 豊かな心の育成 3 支援教育(健康安全教育)の充実 4 地域連携の再構築(地域に開かれた学校)

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな時代の教育ツールとして、GIGAスクール構想の推進のもと、「個に応じた指導」や学習指導の工夫など指導方法および評価の改善に努めた。その結果、基礎基本を徹底し、個性に応じて生徒の力を伸ばすことを心がけ、確かな学びの一層の充実を図った。</li> <li>授業規律の確立のもと、「楽しくわかる授業」「努力が認められる授業」「調べ学習や表現する授業」「ペアや小グループによる学び合う授業」の展開に努めることで「学力の向上」を図った。</li> <li>小学校からの連続性を意識し、既習した内容を確認する授業形態から、全ての学習場面において意欲的に取り組めるように、言語活動を充実し高めさせた指導に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GIGAスクール構想の推進のため、外部講師による職員向けの校内研修を年3回実施することができた。その結果、指導において効果的なステップを身につけて実践することができた。そうしたことが、生徒個々の能力に応じた自ら学ぶ姿勢で、学習意欲を高めることに繋がることができたが、基礎基本の十分な定着にはまだ至っていない。</li> <li>学年や教科の打合せの中で、授業規律の確立における共通理解を図った。そうした足並みを揃えたきりとした態度で、一人ひとりを生かせるような工夫した授業展開を図った。</li> <li>学校生活の様々な場面において、きちんとした「聞く姿勢」づくりを定着させた。そうした中で、授業場面においても、創意を加えた適切な言葉かけで、意欲的に学習に取り組めるように仕掛け、言語活動の充実を高めた指導の実践を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内授業研究会をさらに活性化させ、効果的なGIGA端末の活用や新たなステップにむけて、外部講師の方を招いた研修会の機会を発展させる。また、全教職員で共通の課題をもつとともに、互いに研鑽することで授業力の向上を図る。</li> <li>教科授業を見合い見せ合う中で、互いに高め合う気持ちを大切に、新しい発想を取り入れた意見交換を充実させる。そして、生徒一人ひとりを生かし伸ばしていけるような、授業づくりのために共通理解をもった取り組みの継続に努める。</li> <li>全ての教育活動において、全教職員が生徒を配慮した、丁寧な言葉づかいで取り組む意識を高める。そうした姿勢で関わり合うことで、生徒の「聞く力」を高める指導の徹底を図る。</li> </ul>
2 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が「人として正しく生きる」ために、必要なことを身につけられるよう、その生徒のことを真剣に思いやる、人権尊重を基本とした指導のもと、「あいさつ、時間、環境整備」の実践に努めた。</li> <li>学校生活にふさわしい身だしなみや言動について、会議や研修等を通して全教職員で共通認識を図り、一貫性のある粘り強い継続的な指導に努めた。</li> <li>日常生活の中で、細かく生徒の様子に関する情報交換を行い、各教職員との連携のもと、個に応じた指導と支援を実践した。さらに、保護者への連絡を丁寧に行い、家庭と学校が協力して課題を解決していけるような体制の構築に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃の生活場面において、全ての生徒を尊重した公平な態度で、接する姿勢を大切にしながら臨んだ。そうした姿を生徒たちへ伝えていく中で、生徒同士が様々な人間関係を通して、お互いを大切に尊重し合える、心と態度を身につけさせるように努めた。</li> <li>正しい身だしなみや言動について、粘り強く生徒へ気づかせる指導に努めた。そうした中、多くの生徒がルールを守って学校生活を送ろうとする意識づけを図った。</li> <li>新型コロナウイルス感染防止を講じた学校生活を継続し、生徒観察を充実させる中で、個に応じた指導と支援を実施することに努めた。また、保護者への連絡を丁寧に行い、生徒活動への理解や協力を得ながら、課題への取り組みを図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの生徒を尊重して分け隔てすることなく、関わり合う姿勢を大切にされた取り組みを継続させる。そうした中で、生徒間における人間関係づくりにおいて、お互いを尊重し合える心と態度を身につかせていく、丁寧な指導の実践を図る。</li> <li>より良い基本的な生活習慣の定着にむけて、全教職員の意識を充実させ、さらに粘り強く生徒へ気づかせる指導を発展させる。そうすることで多くの生徒が、きまりを守って学校生活を充実させようとする意識の向上を図る。</li> <li>感染防止を講じた新しい生活習慣で、身につけた必要な取り組みを継続させ、生徒観察を怠らず、個に応じた適切な指導と支援を発展させる。また、家庭との細かな連携のもと信頼関係づくりを図る。</li> </ul>
3 生徒支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが障害とは無縁ではないという考えに立ち、通常級における学習や人間関係の構築に戸惑い、不適応を起している生徒への支援も支援教育と捉えて、共生社会の形成に向けた取り組みに努めた。</li> <li>学習やその他の活動において、十分にその成果が得られない状況を、克服するための支援教育を進めることで、できるだけ多くの生徒が「習得」「修得」という、喜びを味わえるような取り組みの実践を図った。</li> <li>不登校傾向生徒を含め、支援を必要とする生徒の状況をきちんと把握し、保護者や関係諸機関の協力を得て知り得た生徒の様子を、一人ではなく多くの目に役だてることで、適切な生徒支援の充実を努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別に行われることのみが、特別支援教育という見方を改め、連帯意識をもつことへの共通認識を高めた。その上で、様々な生徒活動に戸惑い、不適応を起している生徒を見落とさず、適切な言葉かけのもと、個に応じた支援教育の充実を努めた。</li> <li>学習やその他の取り組みにおいて、できるだけ多くの生徒が、技術や知識を身につけたり、何かを学び掴んだ時の、喜びが味わえるような支援教育の実践を図った。</li> <li>支援が必要な生徒の実態把握に努め、学校への協力組織を有効に活用し、知り得た情報を共有した多くの関わりによって、適切な生徒支援の充実を努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援コーディネーターや学年主任が中心となり、学年や教科をこえて授業支援を行い、不登校対策と支援教育の校内体制の定着を図る。</li> <li>生徒支援の対応に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の助言と協力をいただき、一人ひとりに対して、適切な支援教育の向上に努める。</li> <li>人権尊重教育の観点から、生徒に寄り添い粘り強い、継続性のある丁寧な言葉かけに努める。また、一人ひとりの自主的な取り組みを支援し、達成感を得て自尊感情が高められるような、生徒活動に結びつけられる環境づくりを図る。</li> </ul>

4	健康・安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな社会と言われつつも、あらゆる点で生徒たちを取り巻く環境は、健康安全な面からも負なる要素が多くなっている現在において、計画的に健康教育を実施し、生徒自ら心身の健康に関心をもつように努めた。また、養護教諭を中心に、ほけんだより等を効果的に用いて、家庭と連携しながらよりよい生活習慣の改善に努めた。</li> <li>・生徒を取り巻く環境には、喫煙と深夜徘徊並びに睡眠不足、さらに情報機器に絡むトラブルに関する課題がある。そうした課題への克服に向け、体育や健康、安全そして防犯に関する指導の徹底を図るため、保健体育の学習はもとより保健、安全、食育指導など学習指導要領に基づいて、総合的に関連させた指導の工夫を図った。</li> <li>・快適な学習環境を創り出し、日頃から落ち着いて、安全安心に自分の健康を意識した生活向上に努めた。そうした中、給食委員会を中心に、食事のルールやマナー等食育に対する、クラスの課題と解決策を考え、全クラスへの浸透を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活における喫煙、飲酒、健康的でない食生活等の害について、家庭でのしつけとともに、学校生活における健康安全教育との連携を、充実させていかなければならない。養護教諭を中心に計画的な健康教育を実施し、自分自身の身体に関心をもち、感染症防止対策も捉えつつ、健康な生活習慣づくりの意識向上に努めた。</li> <li>・情報を得る手段として、ネットの存在感は高まる一方だが、ネット上の誹謗中傷や偽誤情報の問題も顕在化してきている。そうした中、情報を正確に扱える対策法を身につけ、ICTリテラシーを高め安全に生活できる力の育成に努めた。</li> <li>・健康的に生活できる環境づくりのもと、自らの身体に対して関心を深め、活力のある基本的な生活の確立を目指した。そして日頃から、運動や食事に積極的に親しむ態度やマナーを身につけられるように、それぞれ個に応じた健康、食育教育の実践を図った。そのためにも、全教職員自ら働き方改革に対する意識を高め、自らの健康管理の増進を心がけながら、生徒指導の実践に結びつけられるような取り組みに努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の身体や健康に対して、より関心をもてる生徒の育成を目指すため、身近な生活と健康を関連づけて考えさせながら、家庭との協力連携を推進する。養護教諭を中心として、継続した感染症防止対策を講じつつ、ほけんだより等を活用し、さらに健康教育を充実させ、健康な生活習慣づくりの意識向上を図る。</li> <li>・自分たちを取り巻く日常生活が、AIによって選別された情報空間の中で生きていくことを知り、生徒一人ひとりに対して、きちんとした偽誤情報対策を身につけさせる。そうした中、「自分はだまされているかもしれない」という心構えをもっておくことが大前提であることにも気づかせたい。さらに、情報源を精査することには限界があり、得たい情報をタイミングよく得られなくなってしまうこともあるため、間違った情報をいったん信じて、修正できるような力を身につけさせていくことに努める。</li> <li>・感染防止対策の緩和が期待される中、健康的に生活ができる環境づくりの発展を目指す。そして、自分自身の身体や健康そして食育に対する関心を深め、活力のある基本的な生活の確立を図る。今を、学校運営を見直すチャンス期と捉え、効率化を図りながら教職員の働き方改革に努め、自らの健康管理の増進を心がける。</li> </ul>
5	地域に開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染防止を講じた学校生活の中で、日頃の授業時間帯において、教員と保護者の方々による見守り活動(2校時校舎内清掃巡回)を再開させることができ、家庭との連携活動のスムーズステップを図った。</li> <li>・厳しい状況下の中であつたが、地域の方々からのご理解やご協力をいただき、地域教育会議主催による、花いっぱい運動等の活動を充実させることで、学校環境をきれいに明るくしていただくことが継続できた。さらに、地域の方々を講師としてお招きしてふれあい体験講座を実施し、27講座開設する中で、生徒と地域の方々と一緒にあった取り組みの再開へと努めた。</li> <li>・年間を通して授業公開を行うとともに、学校だよりや学年、学級通信そして、ホームページなども利用した広報活動に努めた。そうした活動を通して、家庭や地域社会に学校運営や教育活動への理解と協力を求めて、開かれた学校づくりを進めていくことに努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方や保護者による見守り活動を、状況に応じて再開させることができた。引き続き感染防止を講じた生徒の落ち着いた学校生活や、制限のある中でも精一杯努力して取り組んでいる様子を、保護者の方々に観ていただく機会を創り出していくことに努めた。</li> <li>・地域教育会議による花いっぱい運動では、川崎市のわがまち花と緑のコンクールにきらいな学校環境を創りあげていただけた。また、ふれあい体験講座の再開により、ようやく地域と学校がひとつになった取り組みが深められた。地域の方々からの理解や協力を得ながら、常に暖かく見守っていただいていることへ、感謝の気持ちを育てることに繋げることができた。</li> <li>・学校ホームページやメール配信を利用して、学校での様々な取り組みに関する予定について、保護者にむけた定期的な発信に努めた。また、学校だよりやPTA広報誌により、生徒活動や学校の様子を家庭そして地域へ知らせることで、学校運営や教育活動への理解と協力をいただき、開かれた学校づくりへの推進を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、制限のある新しい生活様式で身につけた良い部分を、これからの日常生活においても継続させる。さらに、今できる何か、今すべき事は何かを模索し、新しい発想を取り入れ、多くの方々の知恵や理解そして協力をいただきながら、生徒たちの幅広い活動に向けての活性化を図る。</li> <li>・地域の方や保護者の方々との連携を深め、さらに活気に満ちたきれいな学校環境づくりに努める。そうした中で、様々に変化する状況下に応じて、新しく前向きに進歩した取り組みを検討し、生徒が安心安全に、落ち着いた学校生活を送ることができるように努める。</li> <li>・開かれた学校づくりの推進のため、日頃の学校の様子や取り組みに対する、説明や紹介を丁寧に行うとともに、情報発信の一層の工夫に努める。また、様々な課題を解決し、生徒たちの豊かな成長のために、保護者や地域とのより一層の連携を目指した、地域と共に歩むコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の実現に努める。</li> </ul>
学校関係者の評価		今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が落ち着いている雰囲気を感じている。地域で見える限り、朝の登校の様子から下校の姿など、とても良い学校になっていることを実感している。</li> <li>・発達障害の認識から、支援級生徒が増加傾向にあると思われる。普通の家庭でも、困っている事への対応も必要になってきている中、誰かに支援を求めている事に対して、適切な対応が大事になってくると思われる。</li> <li>・学校と自宅の間にある、地域にも関心をもってもらえればと感じている。地域などで困っていることがあれば、自分で何でも解決しようと思わずに、積極的にまわりの大人に言ってもらえればと思っている。</li> <li>・外部とのいろいろな人とのつながりが心配で、公園などを見かけると、たくさんの子どもが溜まっていることがある。一度仲間になってしまうと、グループから離れてもまたつながり、抜けることはできなくなる。集まっているのを見かけたら、地域が見守る中で、注意喚起をしていくが、様々な危険から、自分の身は自分で守る力を是非身につけてほしい。</li> <li>・校内では、前向きに取り組んでいる生徒に引っ張られ、良い影響をもって学校生活が送られている。学校外の動きについて、特に深夜公園などで、いろいろな声を発していることがあり気になることもある。規則正しい生活習慣を大切に育ててほしい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営の諸課題をスムーズに乗り越えていくため、学年や分掌の組織を、効果的に機能させることに努めた。そして、保護者や地域が期待する教育活動について、誠実に答えていけるよう取り組みを充実させ、さらなる向上を図る。</li> <li>・GIGAスクール構想研究協力校として、外部専門職を招き研修を進め、校務へのICT機器活用の実践化と職員の授業力の向上に努めた。</li> <li>・個に応じた支援教育の充実のため、不登校対策として登校支援教室(ステップルーム)を新たに設置し、実践運用に取り組んだ。さらに、基礎基本的な学力の向上を目指し、支援教育の確実な校内体制づくりを図る。</li> <li>・教育相談を定期的実施することで、いじめの早期発見や対応に生かすことができた。また、生徒会活動や諸学校行事において、生徒の活動を重視し、自尊感情を高めるよう努めたことで、いじめや暴力を許さない環境づくりを進めることに努めた。</li> <li>・感染防止対策が緩和される、社会情勢が期待できる中で、平時の学校運営への切り替え期を、見直しのチャンスとしてとらえ、校内組織づくりや学校行事の再構築を引き続き進める。また、業務内容の見直しとともに、ICT機器の積極的な活用を推進することで、効率化を図り、教職員の働き方改善に努める。</li> <li>・様々な地域の変化に対応できるよう、学区3小学校や関係諸機関と連携し共通理解を深める。また、保護者や地域との、より一層の連携を図るために、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を推進する。</li> </ul>		